

横浜市感染症発生動向調査報告 5月

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告数が増加しています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈5月期に報告された全数把握疾患〉

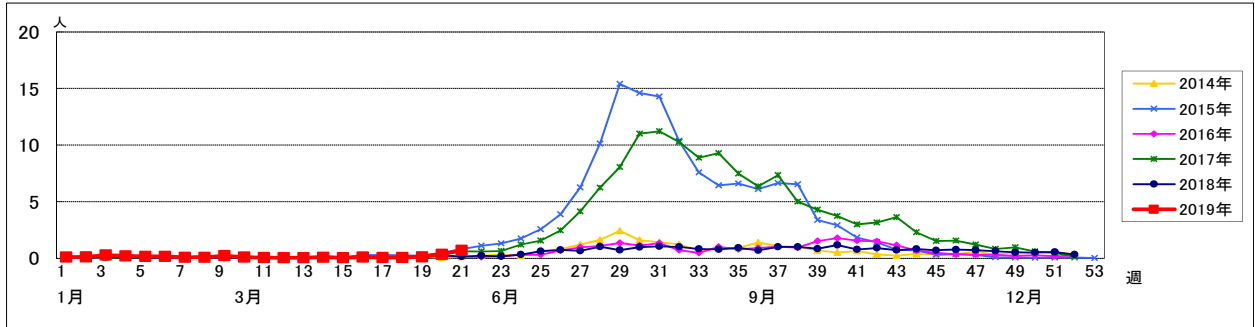
腸管出血性大腸菌感染症	6件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
A型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
デング熱	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	11件
レジオネラ症	5件	梅毒	14件
アメーバ赤痢	4件	播種性クリプトコックス症	1件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	風しん	13件
急性脳炎	1件	麻しん	10件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O26の報告が3件(うち1件は無症状病原体保有者)、O91の無症状病原体保有者の報告が1件、O157の報告が2件(うち1件は無症状病原体保有者)ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件、感染経路不明の報告が1件ありました。
- デング熱: タイおよびフィリピンでの蚊からの感染と推定される報告が1件ずつありました。
- マラリア: 中央アフリカでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が4件、ポンティアック熱型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件ありました。海外での経口感染が1件、国内での経口感染が1件、異性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が1件でした。
- ウイルス性肝炎: 異性間性的接触によるB型の報告が1件ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: ヘルペスウイルスによると推定される新生児の報告が1件ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が3件、B群の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): AIDSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が1件あり、感染経路はいずれも同性間性的接触でした。いずれも男性でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(ワクチン接種あり1件、なし1件)、40歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、60歳以上の報告が8件(ワクチン接種あり1件、なし2件、不明5件)、ありました。
- 梅毒: 14件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件)がありました。感染地域は国内10件、シンガポール1件、不明3件でした。感染経路は異性間性的接触が9件、同性間性的接触が3件、感染経路不明が2件で、性別は男性10件、女性4件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によると推定される80歳代の報告が1件ありました。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が1件(ワクチン接種なし)、小児が8件(ワクチン接種あり7件、不明1件)、10歳代が4件(ワクチン接種あり2件、不明2件)、30歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例12件、臨床診断例1件が報告されています。10歳代1件(ワクチン接種不明)、20歳代2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、30歳代4件(ワクチン接種なし1件、不明3件)、40歳代1件(ワクチン接種不明)、50歳代3件(ワクチン接種なし1件、不明2件)、60歳代1件(ワクチン接種不明)、70歳代1件(ワクチン接種不明)でした。男性11件、女性2件でした。
- 麻しん: 検査診断例10件が報告され、いずれも海外渡航歴がなく、国内感染と推定されます。10歳代2件(いずれもワクチン接種あり)、20歳代3件(ワクチン接種あり1件、なし1件、不明1件)、30歳代4件(ワクチン接種あり1件、不明3件)、40歳代1件(ワクチン接種不明)でした。

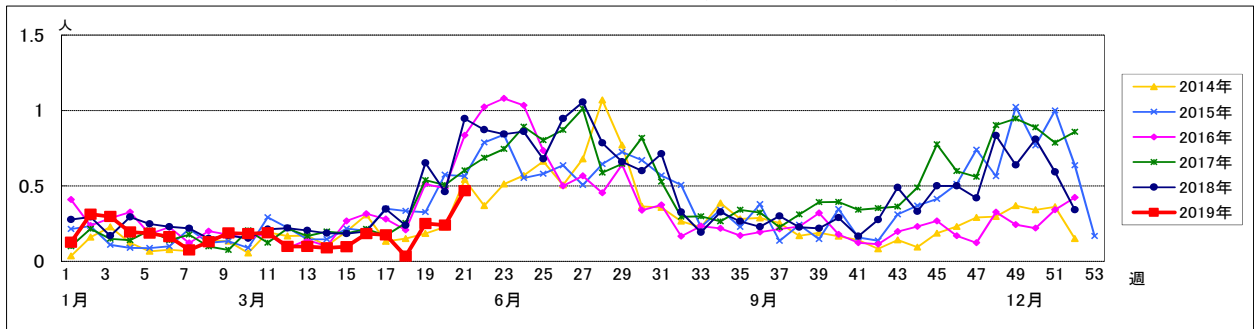
◇ 定点把握の対象

1 手足口病: 2019年は0.05から0.10で推移していましたが、第20週に0.35、第21週に0.69となり、やや増加傾向にあります。近年では2015年、2017年の夏期に増加しました。

報告週対応表	
第17週	4月22日～4月28日
第18週	4月29日～5月5日
第19週	5月6日～5月12日
第20週	5月13日～5月19日
第21週	5月20日～5月26日



2 咽頭結膜熱: 2019年は0.1から0.2で推移していましたが、第21週は0.47と増加しています。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性: 20件	女性: 20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 3件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 1件	淋菌感染症	男性: 6件	女性: 4件

4 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週	第21週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.50	1.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	1.25	0.67

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点36件、内科定点14件、基幹定点13件、眼科定点4件で、定点外医療機関からは4件でした。

6月8日現在、ウイルス分離11株と各種ウイルス遺伝子5件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状				
	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	胃腸炎	ヘルペス脳炎
インフルエンザ AH3型			2		
インフルエンザ B (山形)型			1		
インフルエンザ B (Victoria)型			5		
アデノ 1型	1	1			
アデノ 41型				1	
ヘルペス 1型					1
ライノ	2				
ノロ G2				2	
合計	1 2	1 0	8 0	1 2	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

5月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、大腸菌2件、腸管毒素原性大腸菌1件、サルモネラ属菌1件、劇症型溶血レンサ球菌2件、肺炎球菌1件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌31件、非結核性抗酸菌3件の依頼がありました。

保健所からは、劇症型溶血性レンサ球菌5件、腸管出血性大腸菌5件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性インフルエンザ菌2件、肺炎球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からマラリア1件、非定点からレジオネラ6件の検査依頼がありました。小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌7件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	腸管出血性大腸菌	1	O157:H7 VT1、VT2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Escherichia coli</i> (2)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)	
	大腸菌	2	<i>Escherichia coli</i> O157(1)、O25(1)	
	基幹定点	腸管毒素原性大腸菌	1	O27:H7 ST
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Bareilly (1)	
	劇症型溶血レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌Ⅲ(2)	
	肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	31	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (8)、 <i>Pantoea</i> spp. (19)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Citrobacter freundii</i> (1)
	非結核性抗酸菌	3	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (2)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)	
	保健所	劇症型溶血性レンサ球菌	5	A群溶血性レンサ球菌:UT(3)、T28(1)、B群溶血性レンサ球菌: I b(1)
腸管出血性大腸菌		5	O26:H11 VT1(3)、O157:H- VT2(1)、O91:H+ VT1(1)	
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌		2	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)	
侵襲性インフルエンザ菌		2	<i>Haemophilus influenzae</i> UT(2)	
肺炎球菌		1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関	基幹定点	マラリア	全血 1	<i>Plasmodium falciparum</i> (LAMP法)
	非定点	レジオネラ	喀痰 6	<i>Legionella pneumophila</i> SG1(2)、不検出(4)

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	7	A群T28(1)、A群T型別不能(3)、A群TB3264(1)、A群T25(1)、A群T4(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】